

氏名 沼 本 篤 男

学位(専攻分野) 博 士(医 学)

学位授与番号 博 乙 第 2536 号

学位授与の日付 平成 5 年 3 月 28 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第 4 条第 2 項該当)

学位論文題目 Quantitative ultrasound diagnosis of endometrial cysts
(子宮内膜症性卵巢嚢胞の定量的超音波診断に関する研究)

論文審査委員 教授 平木 祥夫 教授 折田 薫三 教授 大森 弘之

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

子宮内膜症性卵巢嚢胞の超音波依存性減衰について測定し、他の嚢胞性卵巢腫瘤と比較検討した。測定方法は spectral difference 法を用い、関心領域を腫瘤壁に設定する方法を提唱し、これを境界反射スペクトル法と命名した。この方法により減衰特性である減衰係数、減衰量を内膜症性卵巢嚢胞、漿液性卵巢嚢腫、粘液性卵巢嚢腫、成熟嚢胞性奇形腫(脂肪部分)について測定した。内膜症性卵巢嚢胞は漿液性卵巢嚢腫、粘液性卵巢嚢腫に対し減衰係数、減衰量共に有意に高値を呈したが、成熟嚢胞性奇形腫とは減衰係数、減衰量共に同様の値を呈した。又、同一症例における経腹法と水浸法での減衰係数、減衰量の相関をみると、減衰係数では良好な相関を呈したのに対し、減衰量では相関は認められなかった。成熟嚢胞性奇形腫が特徴的エコーパターンを示し、鑑別しやすいことを考えると子宮内膜症性卵巢嚢胞の超音波依存性減衰の測定は他の卵巢嚢腫の鑑別に有用であり、パラメータとしては減衰係数の方が減衰量より優れていることがわかった。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は婦人科領域における嚢胞性卵巢腫瘤の定量的超音波診断法について臨床的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった子宮内膜症性卵巢嚢胞と他の卵巢嚢腫の鑑別に対する本法の有用性について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。